

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	隠岐島前高校	氏名	梶裕典
派遣先団体名	温泉津公民館		
① 研修の日時			
I 子ども 神楽体験 補助員 8月9日(日) 12:30～18:00			
II 全国吉川会・不言城祭補助員 10月24日(土)15:30～21:00 25日(日)8:30～14:00			
② 研修の内容			
I 子ども 神楽体験			
夏休み小学生向け、石見神楽の秘密発見ツアー。神社を会場に、地元若手神楽社中が衣装装着や小道具、作法の説明、演目披露をする。子どもには秘密をメモ書きするための絵入りのノートを配布し、記録をとらせる。受付、子どもの対応、道具運搬など補助員として活動。			
II 全国吉川会・不言城祭			
温泉津ゆかりの戦国武将吉川氏を顕彰している4団体(駿河、安芸、温泉津、鳥取)の全国大会。石見銀山資料館による記念講演、地元住民による朗読劇を上演。併せて翌日に不言城祭として、講談、城跡見学、鉄砲隊演舞、地域の特産品販売を開催。			
受付、会場片付け、物販担当として活動。			
			
【子ども神楽体験】		【不言城祭】	
③ 研修の感想			
今回、温泉津公民館主催の二つのイベントに参加して感じたことは、温泉津は若い力とベテランの力がよく混ざりあっているという点です。			
まず、温泉津は他の地域と比べて若い力をたくさん目にすることができます。若手神楽社中のメンバーをはじめ、京都造形大学の学生と神楽社中が海神楽を企画している関係で、大学生スタッフを多く見かけます。今回担当されていた温泉津公民館の職員の方も京都造形大学の出身で、神楽をきっかけにして温泉津へ来られた方です。			
「地域」でイベントをするにあたり、全て部分で若手とベテランの協働は必要不可欠です。どちらか片輪では、地域として満足する企画にはなりません。温泉津は他の地域と比べて、若手とベテランの距離が近いように感じます。これは若手が日々地域とつながっていること、また、神楽社中の日々の活動によるかもしれません。若手が持つ行動力が地域全体にいいイメージで波及しているように感じます。			
温泉津では温泉、神楽、吉川氏など地域を代表するものが数多くありますが、単純に地域のシンボルがあるからだけでなく、若手とベテランの、地域を支えあう力が混ざりあうことが、今の雰囲気につながっています。			